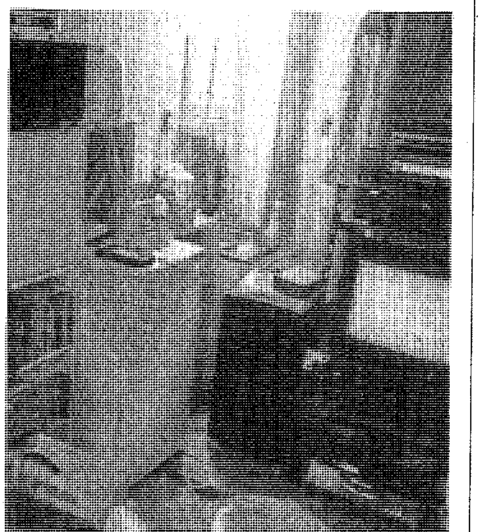
筑波學生新聞

発行所
筑波大学学生新聞会
編集代表
庄司俊之
〒305 つくば市天久保
3-9-5オオキビル3F
TEL 0298(52)4460
振替　宇都宮6―31450
定価100円

大学入試センター試験　受験生特集号

大学ニ来ナイカ？



受験生のあなたは大学生にどのようなイメージを持ちますか。どんなイメージを持つにせよ、それは想像の域を出ていないのではないでしょうか。本紙は今回、大学生は一体どういう人種なのかをアンケートを基に紹介してみたいと思います。対象は、筑波大男子学生十四人と、女子学生十人の合計二十四人。アンケート内容は主に、生活全般における変化についてです。

[illegible]

大学で私は変わった？
―筑波大生の日常生活―

[illegible]

ことから、授業を欠席して、寝ているという場合が想定されます。又、もう一つの理由としては、遅刻です。大学の授業では、遅刻して、授業に出席という光景は日常茶飯事であり、黙認されている風潮があります。ですから、「少しぐらい遅刻してもいいから、寝ていよう」と考える学生が大半を占めます。

次に、就寝時間（設問三）と、帰宅時間（設問四）、自宅での勉強時間（設問五）を聞いてみました。就寝時間の調査結果は、午前十二時前の早い就寝時刻の人が、八人と全体の一割弱。午前十二時台から一時台が七十四人と全体の七割強。午前二時から三時台が二十二人で二割強。午前四時以降は二人でした。こ[illegible]

大学生は、全体の六割近くを占めています。三時間以上の人は、全体の一割にも満たない数です。また、帰宅時間のアンケート結果は、五限終了時刻（午後四時五十五分）前の帰宅時間の人が、五人。五限終了後の午後五時台が二十六人。夕食時の午後六時台から八時台が二十七人。午後九時台から十一時台が二十七人。深夜の午前十二時以降が九人でした。午後九時以降の帰宅時間[illegible]

1　平均すると朝何時ごろ起きますか。
2　授業への出席率はズバリ何割ですか。
3　何時ごろ寝ますか。
4　何時ごろ家（宿舎・アパート）に帰りますか。
5　授業以外に一日何時間くらい勉強していますか。
6　月何回くらいお酒を飲みますか。
7　タバコを吸いますか。
8　普通免許を持っていますか。
[illegible]パーマをかけたことがありますか。
[illegible]ャレになったと思いますか。
[illegible]はできましたか。
[illegible]まだ連絡をとっていますか。
[illegible]は月平均どの位かけていますか。
[illegible]変わった所はどこですか。
[illegible]していますか。

タバコ、自動車免許などに関することを質問しました。お酒については、月のコンパ回数と重なっていると思われる〇回から三回という人が、七十四人と全体の七割強。それ以外も考えられる四回から九回の人が二十一人。十回以上の人が九人という結果が出ました。お酒を飲む回数は、コンパと比例するようで、コンパが多い時は連日という場合もあり、コンパのない時は、全く飲まないという人が多く、女性にそのタイプが多いようです。タバコを吸うか（設問七）については、YES十一人、NO九十三人でした。九割近くの大学生がタバコは吸わないようです。設問八の自動車普通免許を持っているかに関しては、YES五十五人、NO四十九人で[illegible]

が持っているようです。筑波大学は車の保有率が他大学より高いですが、学年があがるにつれ、保有率は高くなります。

次に大学生になってからの外見の変化と人間関係の変化について調べました。大学生になってからパーマをかけたかについての質問（設問十四）については、男YES七人、NO三十七人。女YES四十一人、NO十九人。高校の時よりオシャレになったか（設問十五）については、男YES七人、NO三十七人。女YES三十二人、NO二十八人という結果になりました。大学生には、高校生のような服装や髪型の規則はないので、とくに女性などは大学に入ってから印象が変わります。

人間関係について、大学生になってから親友はできたか（設問十二）に関しては、YES九十人、NO十人。また、高校時代の友人とまだ連絡をとっているか（設問十三）については、YES九〇人、NO十四人。恋人はいますか（設問十四）については、YES二十九人、NO七十三人という結果が出ました。

友人との月平均の交際費（設問十五）は、「五千円以下」三十二人、「五千円から一万円以下」四十三人、「一万円から三[illegible]

〝スポ根〟を捨てた僕
H・A（基礎工学類二年）

[illegible]

入りたい大学って？
M・T（人間学類一年）

[illegible]

自主休講

東京には空がないけれど〝スカイ〟がある。S・K・Yという、有名予備校の頭文字をとったのが、この〝スカイ〟。受験生たちは予備校のことをあれこれやと言って茶化す▼高校の頃、世界史の教科書を読みながら、予備校の妙な茶化しかたを考えた。―S予備校はカソリック。上層部の有名講師の書いた聖典のような教材を、下々の講師はなぞりながら授業する。これによってS予備校の授業内容は、普遍的な水準を保つことができる。―Y予備校はプロテスタント。統一した教材はあっても、各教会＝教室はそれにとらわれず自由に授業ができる。すべては牧師＝講師の教え方次第。別にどれほどのことでもないが、妙な相関関係を見つけると面白い▼ところが、理屈はイモヅル式に広がるものらしい。中世の教会の役割を現代で果たすのは、間違いなく教育機関なのだ、という具合に。確かに、かつて教会が独占していた〝真理〟を近代科学が奪って以来、新たに〝真理〟を供給する装置となったのが教育だった。宗教が、社会学的に見ると多分に支配のためのイデロオギーと映るように、教育もまた同じ性質を持っている▼大学に入学したての一学期、「教育心理学」[illegible]

数学

出題内容

A日程

1. ベクトルに関する問題
   内分点の位置ベクトル、ベクトルの大きさの比（線分の比）
   三角形の面積比
2. 数列
   特別に定義された数列の一般項、数列の和
3. 微積分
   絶対値を含む積分とその最小値を与える実数の条件
4. 積分の応用
   区分求積法と定積分の関係
5. サイコロをn回投げたときの最大公約数が、5 6 なる確率、確率の極限値

C日程

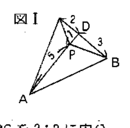
1. 行列
   逆行列の存在条件、1次変換
2. 三角関数の定積分とその最大最小を求める

以上のような出題内容であったが、このところ毎年そうであるように、今年も基本的問題、標準的問題が出題されたが、これも例年通り出題される領域に偏りがなく、全体的にバランスのとれた出題なので全範囲にわたって、しっかりした基礎学力を養っておかなければならない。

ここでは1回のベクトルの図形への応用について考えながら、基本的な定理の整理をしてみたい。

1 △ABCの内部に点Pがあり、$\vec{PA}+2\vec{PB}+3\vec{PC}=\vec{0}$が成り立っている。直線APと辺BCの交点をDとする。
(1) $\vec{PD}$を$\vec{PB}$、$\vec{PC}$を用いて表せ。
(2) BD:DCを求めよ。
(3) AP:PCを求めよ。
(4) △BPCの面積が3のとき、△ABP、△BCP、△CAPの面積を求めよ。

(1) $\vec{PA}+2\vec{PB}+3\vec{PC}=\vec{0}$より　図Ⅰ



$-\vec{AP}+2(\vec{AB}-\vec{AP})+3(\vec{AC}-\vec{AP})=\vec{0}$

∴ $6\vec{AP}=2\vec{AB}+3\vec{AC}$

$\vec{AP}=\frac{1}{6}(2\vec{AB}+3\vec{AC})=\frac{5}{6}\cdot\frac{2\vec{AB}+3\vec{AC}}{5}$　ここで

$\vec{AD}=\frac{2\vec{AB}+3\vec{AC}}{5}$　とすると、Dは線分BCを3:2に内分

$\vec{PD}=\frac{2\vec{PB}+3\vec{PC}}{5}$（答）　よって(2) BD:DC=3:2　答

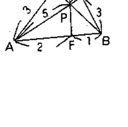
(3) $AP=\frac{5}{6}AD$ より、AP:PD=5:1

(4) $\frac{\triangle ABP}{\triangle BPD}=\frac{5}{1}$　△BPD=3 より　△ABP=15

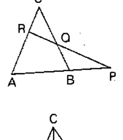
$\frac{\triangle BCP}{\triangle BPD}=\frac{5}{3}$　∴△BCP=5

$\frac{\triangle CAP}{\triangle ABP}=\frac{2}{3}$　∴△CAP=10

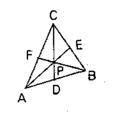
さて問題の解答は以上の通りであるが、問題をつけ加えてさらに(5) BP、CPがそれぞれAC、ABと交わる点をE、Fとするとき、(イ) AE:EC、(ロ) AF:FB、(ハ) BP:PE、(ニ) CP:PF を求めよ。とすればかなりのボリュームになるが、実際には、次の2つの基本定理によって、大して時間をかけずに解答することができる。中学で学習してきた定理なので、証明は各自試みること。



〔メネラウスの定理〕
△ABCの三辺・AB、BC、CA又はその延長と交わる直線をひき、その交点をそれぞれP、Q、Rとすると、
$\frac{AP}{PB}\cdot\frac{BQ}{QC}\cdot\frac{CR}{RA}=1$（図）



〔チェバの定理〕
△ABCの3つの頂点からひいた直線が一点Pで交わるとき、その交点は、辺との交点をそれぞれD、E、Fとすれば
$\frac{AF}{FB}\cdot\frac{BD}{DC}\cdot\frac{CE}{EA}=1$
（なお点Pは、△ABCの外部にあっても成立する）



図Ⅰで、メネラウスの定理を用いると

$\frac{CB}{BD}\cdot\frac{DP}{PA}\cdot\frac{AE}{EC}=1$　∴ $\frac{5}{3}\cdot\frac{1}{5}\cdot\frac{AE}{EC}=1$　∴ AE:EC=3:1

チェバの定理より

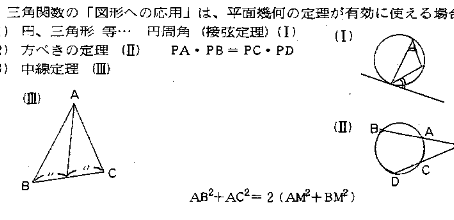
$\frac{AF}{FB}\cdot\frac{BD}{DC}\cdot\frac{CE}{EA}=1$　∴ $\frac{AF}{FB}\cdot\frac{3}{2}\cdot\frac{1}{3}=1$　∴ AF:FB=2:1

さらにメネラウスの定理を用いて

$\frac{AC}{CE}\cdot\frac{EP}{PB}\cdot\frac{BF}{FA}=1$　∴ $\frac{4}{1}\cdot\frac{EP}{PB}\cdot\frac{1}{2}=1$　∴ $\frac{EP}{PB}=\frac{1}{2}$　BP:PE=2:1

$\frac{AB}{BF}\cdot\frac{FP}{PC}\cdot\frac{CE}{EA}=1$　∴ $\frac{3}{1}\cdot\frac{FP}{PC}\cdot\frac{1}{3}=1$　∴ CP:PF=1:1

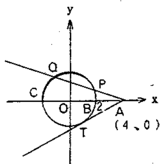
◎ベクトル、三角関数の「図形への応用」は、平面幾何の定理が有効に使える場合が多い。上の2定理の他にも
(1) 円、三角形 等…　円周角（接弦定理）(Ⅰ)
(2) 方べきの定理（Ⅱ）　PA・PB=PC・PD
(3) 中線定理（Ⅲ）



$AB^2+AC^2=2(AM^2+BM^2)$

練習問題

1. 2定点、A、Bと定円Cが与えられている。
   PがC上を動くときPA^2+PB^2が最小となる点を図示せよ。
   〔解答〕中線定理より、ABの中点MとCを結ぶ線分と円の交点
   （勿論、A、B、円Cなどは座標方程式で与えられる）
2. x^2+y^2 とA（4，0）についてAから、円と2点で交わる直線を引き、交点をP、Qとするとき、AP・AQ=□　また、Aから引いた接線の接点をTとするとき、AT=□
   〔解答〕方べきの定理よりx軸と円との交点B、Cに対して
   AP・AQ=AB・AC= 2×6=12
   $AT^2=12$ より $AT=\sqrt{12}=2\sqrt{3}$



中村欣嗣先生

ゴールはすぐそこ

筑波大二次　主要三教科　問題の傾向と対策

受験生のみなさん、お疲れさまでした。センター試験の結果はいかがでしたか。とりあえず、あとは二次試験を残すのみですね。編集部では、筑波大二次試験の主要三科目について渋谷ゼミナールの先生方に分析していただきました。筑波大志望の方、これを参考にして合格を目指して下さい。がんばれ受験生!!

英語

筑波大学においては九〇年度より二次試験は前期日程と後期日程の二つに分かれて行われるようになった。従ってここでも前・後期に分けてその傾向と対策について記す。

前期

〈傾向〉

九一年度では読解問題が二題、英作文が一題の計三題が出題された。これは九〇年度と比較すると読解が一減になっている。ではその傾向はどのようなものであろうか。まず読解であるが、第一問は科学と宗教を対比させながら、それぞれがどのような特色をもっているかを論じた文章であるが、内容がかなり高度であり、脚注も付されていないために戸惑う受験者も多いにちがいない。この論文に七問が付されており、そのうち五問は和訳させる問題であり、他の三問は説明を要求する問題である。第二問は母についての文章であるが、これは内容的にも素直な、また読みやすい平易なものとなっている。問題は六問あり、そのうち三問は和訳させるものであり、他の三問は説明問題である。第三問目は英作であり、長文の日本文があり、その文の四ケ所に下線が引かれており、部分英訳させる問題である。日本文は口語文であり、それほど難しい内容のものではないが、そのくだけた日本文を英訳することはかなり難しいといえる。

〈対策〉

ではこれらの問題を一二〇分内に解くためにはどのような勉強をしたらよいだろうか。まず第一に読解問題であるが、なにより大切なことは、さまざまな内容の英文に読み慣れることである。そしてたとえ全部の語句がわからなくても前後からだいたいの文意を把握できるようにすることである。なぜなら、すみからすみまで理解できればそれにこしたことはないが、そうでなくても十分解けることも実力である。第二に英作であるが、与えられている日本語をどのように英語のパターンに置き換えることができるかということが最重要である。このことはできるだけ多くの英文を書くことによってのみ身につくものである。

後期

〈傾向〉

前期と同様に全部で三問であるが、その形式は一部においてはだいぶちがう。第一問にそれが顕著にでているが、部分和訳と部分英訳が合体している。内容は徳川時代の終わり頃の日本人留学生について書かれたものであるが、問題は二問あり、和訳と英訳である。第二問は一種の日米文化比較論である。第一問に比べるとこちらの方がはるかに理解しやすい文章である。設問は三つであり、一つは前置詞の問題で、七つあるが、そのうちの五つはイディオムの一部として用いられている前置詞が問われている。他の二つはイディオムの一部とは無関係であるが、解答するにはそれほど困難ではない。二つの部分和訳のうちの一つは短く、もう一つは長いものであるが、後者の文では関係代名詞の省略を見抜けないと訳せない文になっている。そしてもう一つの問題は説明を要求するものである。第三問は英作であるが、「あなたにとって、自国の文化を勉強することは国際人になる上でどのような意味があると思いますか、英語で論じなさい」というものであるが、

れているが基本的には自由英作文であり、このような問題を解くときに重要なことは、(1)論の一貫性があること、すなわち導入、本題、結論とはっきり [illegible]

桑原五郎先生

国語

受験生が当面する前期日程の国語に絞って、準備に資するかと思われることを記した。入試問題解説、傾向やら対策らは、既に刊行されており、質量ともに十分な資料は受験生君の手元にもあるだろう。ここでは、昨春の問題形式を、各の設問ごとに吟味する。実際受験に際しての臨場感を味わってみることができるだろう。設問での留意点をあらかじめ認しておくことで、多少なりとも解答への一般的な指針を備えていただきたい。近年の出題向をみるに、筑波大学にあっては、さしたる変動は予想し難いと思われるからである。

現代文　第一題目は、問題文が西沢潤一『私のロマンと科学』（第一部　研究と教育の現場）より採られている。量は二千字ほどである。決して難 [illegible]

構文、造の把握が要請されているのであるから、このような形式の設問には明確な答えが提出できて然るべきであろう。

(3)内容理解の確認問題。五個の選択肢に適否の判断をする。〇×式テストの妥当性に批判が出されて久しく、これはその最たるものとはいえ、精確な読解ができているかどうかをみるには良問といえるだろう。至って素朴な設問である。

(4)前問の〇×式問題の批判に抗して余りある大型の問題。問題文中から、読解の鍵となる語を四語選び、それらを用いて「学問の純粋性」という題で自己の見解を八百字程度で述べるというもの。これには、まず、文章の趣旨を押えておくことが必要である。その過程で鍵となる四語を選ぶことができるだろう。この点が踏まえられれば、あとはミニ小論文という体裁である。筑波大学入試には小論文問題に耐え得る国語力が要求されているが、適切な証左がここにもあ [illegible]

(2)西行の歌の下の句が問題文中に引用されているが、設問で上の句が紹介される。その一首を通してうかがえる西行の思いを、問題文の筆者がどうとらえているかを問う。五つの選択肢から一つを選ばせるものである。論述で答えるのに劣らぬくらいの読解力が求められるといえよう。

(3)文中の傍線部分「ぼくらがそこに何かを置き忘れたり、投げ出してくるような旅のかたち」に表現される旅とはどのようなものかを説明させる。このように、比喩的な表現も説明問題には恰好の材料となってしまう。読解する文章中に比喩が使われていたら、「喩えること」と「喩えられること」の関連をよく吟味しておけるくらいの「醒めた目」を保つようにしたい。

(4)文中傍線部分「友世界の空の下でたびたび道に迷う」について。「たびたび道に迷う」青年に対する筆者の期待は何かと問われている。問題文は紀行文のようだが、筆者が一青年に書いている手紙とも受け取れる内容である。この設問には、その点がよく生かされている。読解力と思考力がともに問われる良問である。

古文　第三題目は、『十訓抄』〈第一（可定心操振舞）の二六〉からの出題。成範民部卿が事件があって配所から都に召し返された時の様子を述べた文章である。二百五十字程度の長さで、連続三年間、一定している。傍線部分が三個所あり、設問は四つ。

(1)傍線部「今はさしもなかりければ」とはどのようなことかを問う。勿論「さ」の内容を問う、指示語の問題でもある。また、「今は」と示されているので、過去におけるありようと対照であることも考慮されよう。説明問題としては基本的なタイプのものであり、的確な解答が求められよう。曖昧な答え方をすれば、採点する側からは至らなさが丸見えとなってしまう問いである。

(2)傍線部「雪の上はありし昔に変わらねど見し玉垂れの内やゆかしき」の和歌を現代語訳させるもの。文脈をよく把握した上で解釈することになる。歌の中の文法的な要素も見落としてはなるまい。特に「内やゆかしき」の「や」の意味をつかみそこねると次の設問に支障をきたすことになってしまう。古文中に出てくる和歌の意味は、地の文との緊密な繋りを見通しつつ、解したい。

(3)前問に関連した問いで、前出の和歌が係助詞を変えたらどうなるかを尋ねる。「『や』文字を消して、そばに『ぞ』文字ばかりを書きて」と振舞う成範の気持ちを説明させる。妥当な問いであり、受験生は高校終了時としてごくあたり前の学力がそなわっているか否か、見事に検査されてしまう。

(4)これも前問を受けて、さらに成範の称賛される点を述べさせる。ここでは和歌の背景まで知識を問われるといえよう。当時の通例として、歌を贈られたら、それに応じた内容の歌を返すことになっている。その通りに、成範はわずかな時間で返歌するのだが、その折彼独自の当意即妙さを顕すという次第。これも基本的な良問であり、解答に誠意をこめて論述し、おのが古文の力を余すことなく示してほしい。これは、ひねくれたクイズの如き珍問でも、難解な性格の設問でもない。

漢文　第四題目は、陳寿『三国志』〈巻一二魏書　崔琰伝〉からの出題。崔琰という男が自他ともに対する厳しさゆえに次々と中傷を受けて処刑されるという話である。二百五十字程度の文章。設問は四題。

(1)傍線部分「謂琰為失所挙」の現代語訳。語法がマスターできていれば何ら混乱はない。基本問題といえる。

(2)傍線部分「会当有変時」について、崔琰と太祖との絡みを問う。(A)崔琰の気持ち、(B)太祖の受け取り方を、各々五つの選択肢から一つ選ばせるものである。これは文脈を的確に把握していることが正答の条件となる。

(3)傍線部分「琰雖見刑、而通賓客、門若市人」を書き下し文に改めさせる問題。(1)と同様、漢文読解の基本を問うものである。

(4)問題文から崔琰はどのような人物として描かれているかを説明させる問題。しかもそれを述べる根拠を提示させるとなれば、論証・論述となり、この設問の比重は大きいことがわかる。ここで表現力を発揮して高く得点すべきであろう。

これらの大問四題に一二〇分で実質のある解答をするには、腰を据えた学習が根気良く積み重ねられていなければならないだろう。「ちょっとアルバイト」の感覚でする勉強では、対応を許さないきつさがあるようだ。受験生には心して取り組んでいただきたい。また、答案を作成するからには、採点するためにそれを読むという作業もなされる。書くのも人間、読むのも人間。ここにコミュニケーションが、きわめて特殊なものではあるが発生する。されば、伝達の直接媒介となる文字は丁寧に書くようにお願いしたい。受験するからには是非とも合格を。

加藤平八郎先生

フィクションで贈る

二十一世紀の大学とは…？

財閥による大学の再編

九〇年代後半に訪れた世界的資金不足による不況は、大学さえも例外とはしなかった。折からの学生不足も手伝い、経営難に陥る大学が続出した。中には倒産するものまであらわれたが、九二年までの大学・学部の増加が裏目に出てしまい、政府の私学助成金ではもはや何の役にも立たなかった。それを救ったのが財閥である。

既に九〇年代前半から、共同研究による研究成果の向上を目指し、財閥系企業と大学との提携は活発に行われていた。しかし、今回の事態は、大学の経営にまで財閥の介入を許すこととなった。資金援助の交換条件として、理事の半数以上が財閥関係者で占められてしまったのだ。

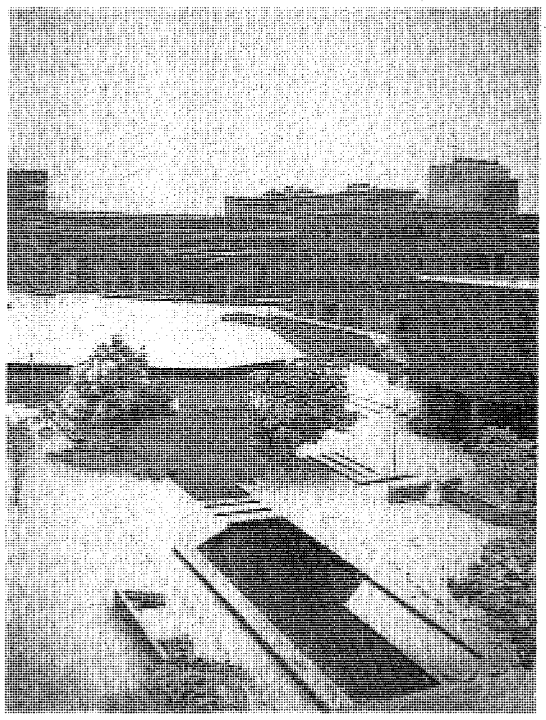
リスクの大きい大学の経営に財閥が乗り出した背景には、折からの求人難がある。大学経営によって、大学入学時に〝青田刈り〟をしてしまおうというのである。それに成功した財閥は、さらに次のステップへと踏み出した。自らの財閥内の大学を序列化し、幹部候補養成のための大学と普通の大学とを完全に差別化してしまったのである。その結果、普通の大学は利益追求のためのサービス機関と化してしまった。

では、幹部候補養成の大学〝エリート大学〟と、普通の大学〝レジャー大学〟の学生は、どんな生活を送っているのだろうか。

四菱系幹部養成大学として地方移転・設置認可を受けたのが、エリート大学である。

これは他の財閥の同様な大学にもあてはまることだが、この大学は山奥の不便地に設置されている。[illegible]

カリキュラムは、朝の六時半から、夜九時まで、八コマである。[illegible] 少人数制授業を徹底させており、ほとんどは専攻別の各十人のクラスで行われる。学生は、全員寮に入る。門限は九時半で、違反者には罰則がある。[illegible] 伊集院貴臣君の一日をみてみよう。



四菱系の普通の大学のひとつとして設立された超マンモス大学、レジャー大学は、四菱系企業の実働社員を集めるために機能している。――つまり、大学の四年間を勉強せずに過ごさせるような大学なのである。

四菱内ではエリート大学が研究活動を行っているため、レジャー大学の研究機関としての役割は、あってなきがごとしである。教育機関としての使命もほとんど忘れ去られ、単なるサービス機関と化しているのだ。ちなみに、このサービス機関の業務は、四年以上の間、会員に大学生の身分を与え、その後に卒業証書を発行することである。

この大学は、新宿と六本木にある四菱の超高層ビル内にある。新宿校舎は四十階から六十階を、六本木校舎は二階から三十階をそれぞれ利用している。ちなみに、新宿校舎は四菱の女子大が二つ入っている。六本木校舎は、上の方は、フィットネスクラブ、ディスコ、映画館等があり、総合レジャーランドとして有名である。

授業は集中講義のみである。昼頃から午後四時くらいまで続けて行われ、それが数日間続いて、単位がとれることになる。出席をほとんどとらない上にテストは易しく、採点も甘いため、講義に出る学生はほとんどいない。講義は百人から五百人の大講義室で行われるため、学生が少ないのがよけいに目立つ。一方で、実習には変わったものが多く人気を博し、実習室はモグリ学生も多く盛況である。

サークルは、多種多様である。体育会は比較的しっかりしているが、文化系・芸術系のサークルはほとんどが夏は海、冬はスキーであとはコンパという活動をしている。

このようなものがレジャー大学の特徴である。それでは、この大学の学生、人間科学部行動心理学科の軽沢裕二君の一日を追ってみる。

エリート大学 伊集院君の場合

遠くで何か鳴っている。あ、目覚し時計の音か。起きなければ……。重い頭をひきずりながら、ベッドから立ち上がった。

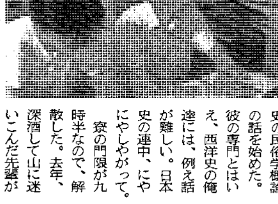
六時半から授業がある。学校まではすぐだけど、六時には起きなければ頭が働かない。ボーッとして授業を受けるなんて愚の骨頂だ。寮でつくってくれる朝食をとってから、学校へ急いだ。皆、寮に住んでて、自転車通学だから、朝のラッシュには閉口してしまう。授業をサボるなんて馬鹿なマネをする奴はいないし、一限はどこの学部も全部必修。一斉に登校してしまうのだ。

教室に入ると、既に何人か来て、予習をやっていた。やっぱり、古典ギリシア語ともなると、気合いがみなぎっている。西洋史をやるからには、やはり歴史の父と言われたヘロドトスくらい読めなくちゃ、話にならない。俺も予習をしなければ。

しばらくすると、教官がきて講義が始まった。そういえば、西園寺、また来てないみたいだ。講義は、4回以上欠席すると単位がもらえないのに。もちろん欠席するなんて言語道断だが。大体、こんな周りに何もない山奥で、授業に出ずに何をするんだろう。サ店も遊ぶところも何もないのに。第一、ふもとまで出るバスは、週に二本しかないんだから、外へ遊びに行くには、授業サボりまくらなきゃいけない。もっとも、俺は大学に勉強するために来たんだから、誘惑は少ない程いいんだけど。まぁ西園寺はもうだめだろうな。この大学は四年間しかいられないし、語学は毎年あるから、一度単位落としたら二度ととりかえせない。奴は休学か退学だろう。おっと、授業に集中しなければ。

三限は史学の演習だ。「歴史は科学であるか否か。」一年間この命題について討論するのが、この授業の主旨だ。今日は俺の発表日。俺は、ヘーゲルやマルクスの抱括的歴史観を批判した。そしたら、城之内の[illegible]

ニッポンの明日は、俺が背負う！



[illegible] ようやく午後の四コマが終わ[illegible]散した。去年、深酒して山に迷いこんだ先輩が態に撲殺されるまでは、こんなに厳しくなかったのに。西園寺なんか、散歩しに外に出ただけで停学一週間。勉強には差し障りないので別にかまわないが。そういえば、来年から八限目が必修になるらしい。そうすると、終わるのは九時。サークルはどうなるんだろう。ま、深く勉強できればそれにこしたことはない。

寮に手紙が来ていた。ハツシバ系列の青木学院大の綾小路からだ。あいつも変わったものだ。自殺の名所、青木ケ原樹海を切り開いてつくったゴリゴリのテクノクラート養成大学らしいが、自殺者の亡霊にとりつかれて、夜も眠れないそうだ。大学をやめようかと思ってるらしい。このご時世に幽霊なんて馬鹿馬鹿しい。高校の時は、そんな奴じゃなかったのに。いっそのこと、レジャー大学にでも行ってればよかったのに。

おっと、手紙を読んでいる場合ではない。今夜はレポートを二つ片付けなければ。計三十枚もある。慣れればたいしたことはないが、語学の予習、復習もやると、もう寝る時間になってしまう。時間を有効に使わなければ。とりあえず、相部屋の伊集院と、レポート課題の解釈について話し合った。同じ専攻同士が相部屋なのは、こんな時有難い。よい大学を選んだものだ。

ようやく勉強が終った。もう三時だ。あと四時間しか寝られない。しかし、この規律正しい禁欲的生活態度こそ、人間にとってあるべき姿なのだ。これからの日本を背負ってゆくのに、こんなことぐらいで甘えてはいられない。レジャー大学へ行った軽沢のように、平日も休日もチャラチャラと車だの女だのにかまけているのとは違う。奴らとは違うんだ。

などと色々考えてるうちに三十分もたってしまった。もう寝なければ。

レジャー大学 軽沢君の場合

遠くで何か鳴っている。あ、目覚し時計の音か。うるせえな。

「いてててて……」なんだって三日連続コンパなんか……まだ宿酔いだぜ。ちくしょう。学校行くのやめとこうかな。よくわかんないけど、行かなくていいみたいだし。もうしばらく行ってないけど。ま、今日は家で寝てるか。

うるせえな…、電話だ。頭いてーのに。

「もしもし」

「あ、栄作だけど。お前、今日から英語Iの講義じゃねーの？」

「え、それって、出なきゃヤバいの？」

「あったり前だろ。お前、単位全然取ってねーじゃねーか」

「教室どこだっけ？」

「新宿校舎の四二階の一五だよ」

「新宿か～。六本木だったら帰りに遊べるのによ」

「あんだけ遊んどいてまだ足んないの？」

「いいだろ。お前に関係ねえよ」

学校へ行かなきゃいけないらしい。

教室に入ると、休み時間らしく、皆立ち上がっていた。

「おい栄作、次、何分からだっけ？」

「あー、先生だるいからって帰っちまった」

「……」

「明日のテストに出れば単位はくれるらしいぞ。楽勝楽勝」

じゃ、帰るしかないのか……。何しに学校来たんだろ。サークル行こ。あ、でもそういえば、今日はこれから六本木校舎でカラオケの実習、あるんだっけ。ちょっと行ってみよ。B級アイドルが講師に来てるみたいだし。

お、やってるやってる。実習とか言って、只歌ってればいいだけじゃん。気にしない気にしない。あ、教官が講義してるみたいだ。何々、カラオケの意義は……大衆文化としてのカラオケは……中島の「時代」はニーチェの言うところの永劫回帰の……なんだかよくわかんねえや。早くアイドル出せよな。あ、あれ大周じゃん。

「おい、大周、何歌うんだよ」

「あ、裕二、何してんだ。モグりだろ」

「うるせえな、一応履習申請はしたよ。それより、何歌うんだよ」

「俺はやっぱり、ユーミンだな」

「また懐メロかよ。ダッセー。ま、俺には関係ないけどね」

あ、アイドルでてきた。かわいー。ゲ、歌超ヘタ。アイドルなら誰でもいいってわけじゃねぇぞ。全く。あ、畜生、俺の順番がまわってこなかった。目の前で授業が終わった。くそー。くやしい。サークル行こ。この校舎の上だっけ。

「あ、栄作、もう来てたのかよ」

「お前が遅えんだよ」

「今日は何すんの？」

「三日連続コンパだったしなー。久しぶりに泳ぐか」

「そーだな、最近、体なまってるし」

そういえば、上に温水プールがあるんだっけ。学生はタダで入れるんだよな。全くいい大学だぜ。なんたって、天下の四菱に就職できるんだしな。

「お、いるいる。やっぱ水着はいいぜ」

「あの娘、結構いいセンいってんじゃん」

「あっちもけっこーいけるぜ」

やっぱ久しぶりのプールはいい。女はいるし、運動になるし、ま、今日は疲れてるから声かけんのはやめとこ。

うっ、まだ五十メートル位しか泳いでないのに、もう疲れちまった。あがろ。

「なあ裕二、俺達このまんまここ出て四菱入っていいのかな」

「何言ってんだよ、遊んでて仕事にありつけるなんて、こんなうまい話ねえぞ」

「それもそーだな」

馬鹿なこと考えやがって。栄作もヤキがまわったかな。

「じゃな」

「そんじゃな」

家に帰ると、手紙が来てた。青木学院大の綾小路からだ。青木ケ原樹海まで行って、亡霊にとりつかれたなんて、勉強しすぎでプッちぎれちまったんじゃねえか。他人の事なんか興味ねえけどな。ビデオでもみるか。『スターウォーズ7』、エアチェックしといたハズ。それにしても疲れたな。ゲッ、なんじゃこりゃ。あ――!!サザエさんだ!まだこんなもんやってやがったのか。予約間違えちまったな。ちくしょう。いいや。頭痛いし、もう寝るか。

よくわかんないけど、楽しければいいいんじゃない

今時の大学は…

[illegible] 過ぎ、大学受験者人口は急激に減少してゆくことになるのだ。その〝引き潮〟の影響が、前述した中堅私大を中心としつつ、各大学に深刻な学生不足をもたらすことは必至である。

〝引き潮〟への対策として、近年、大学の個性化が重視されるようになった。慶應大学の環境情報学部や総合政策学部、早稲田大学のスポーツ科学部や人間科学部の設立などは、その先駆けと言えるだろう。

これらの動きは、大別して二つの方向性を持っている。一つは、楽しく学べるソフトなイメージで学生を集めようとするものである。特に、アグネス・チャンの信州大学や鹿児島大学での講義、神奈川大学に於けるカラオケ授業の実施などは、その顕著な例である。これらは、大学での既存の教育内容に限界を感じ、新たな大学教育の枠組を模索するという点では意欲的である。しかし、中には常に目新しさを追求しただけのものもあり、両者が混在していることから、結局何をやっているのかわからない状態に陥るケースもある。さらに、大学をパスポートとしか捉えない学生が集まり易くもある。

もう一つは、大学の四年間を勉学にいそしむ期間と位置づけ、そのハードさで学生を集めようとするものである。典型的な例として、多摩大学を挙げてみたい。ここでは、学生を企業の製品になぞらえ、自社の製品＝学生の学力に責任を持たねばならないとしている。そのために、講義は定刻に開始され、休講がないのだ。――これは、従来の一般的大学では考えられないことである。学生の学力に大学が責任を持つのは、当然にして理想的な考え方である。しかし、これも、行き過ぎると自分の専門のことしかわからない世間知らずな学生を生み出してしまう場合もある。

これらの〝個性化〟の動きに対応するかのように、文部省では今年、大学設置基準の大幅な緩和、いわゆる「大綱化」を行った。それまでの大学設置基準は教養科目として人文・社会・自然の分野から各十二単位の履習を必要とするなど、細かい点まで規定していた。それを、大学の責任に於いてほとんど自由化してしまったのである。

この流れの中で、生き残りを賭けた大学が、〝個性化〟を一層進展させることは十分に予想される。ここでは、〝個性化〟を追求した結果、大学の形態が二分してしまう状況をフィクションとして描いてみた。

血液型別受験生占い

さむい――。とかく受験生には身にしみる寒さだ。二次試験まであと××日、ヤマトよ急げ。試験は近づいているのに、勉強の能率が上がらない。コタツに入っても、重ね着しても、体の真から暖かいと感じない。こんなとき、ポツリと二浪中の友人Kが言う。「ドラえもんの四次元ポケットがあればいいのに」――。

そう、受験生はわらをもすがる思いなのだ。無駄とわかっていても、宝クジをせっせと買ってしまうサラリーマンの様に、青森の落ちなかったリンゴを買ってしまった受験生は多いのではないか。「血液型別受験生占い」の見出しを見て、この記事を読んでいるアナタも例外ではない。この時期になれば、神もヘチマもないのである。

とりあえず、この「占い」にすがってみてはどうだろう。

A型

よく言えば気配り上手。悪く言えば神経質なA型人間。グループ学習では周りに気をつかい自分のペースを乱してしまう恐れがあるので一人で勉強する方が向いているだろう。

ゴールを目指して日々の努力を怠らない、またはそうしようと考えているA型は、〝ウサギとカメ〟のカメを連想させる。我慢強さはピカ一だが、要領の悪さでも光るものがある。完全主義者でテストに出そうもない記述にもこだわりを見せる。しかしそれが災いして、試験三日前にも範囲の半分も勉強していないという事態にもなりかねない。テストの答案でいうと、一問目は裏面まで使ってびっしりと解答してあるのに二問目は白紙という様なものだ。ホント、カメである。完璧を追求したいなら、全体をよく把握する必要がある。見通しを立ててから、ポイントを絞っていくことが大切だ。ウサギに勝つためには近道も一つの手である。

また強く自己主張しないA型は「あの時、ああすりゃあ」と後悔することがよくある。しかし苦しい立場に立たされると開き直って大胆になり、いつになく才能を発揮できる力を持っている。あたかも力メのように。試験前は楽観的に物事を考えるようにしよう。

B型

好奇心旺盛で、何事にも首をつっこみたがるB型人間。どの学部に進学しても十分やっていける融通性と社交性がある。しかし一貫性がないので受験勉強を計画通りに進めることはできない。B型はドラネコの様に独特の生活リズムを持っているので集中できるときに一気にしてしまう方がいいかも。

興味のある勉強なら何時間でもできるのだが、それ以外の勉強は見向きもしない。ドラネコ根性そのものだ。関心がもてる糸口を見つければ、どの教科も器用にこなせるハズである。

一日中ふらふらしてるドラネコは、将来のプランなど殆ど決めていない。そのため大学選びでも周りの意見に流されがちだ。煮えきらないB型を理解しコントロールしてくれる人が見つかれば救われる。

また、カンが冴えているので、最後の手段としてヤマをはってみてはどうだろうか。無論、保証はできない。ヤマが外れたらバケネコになろう。

O型

志望校合格に向けて勉強しているO型人間は、さながら赤いマントに突進していく闘牛の牛の様だ。その勢いは誰にも止められず、障害があればあるほどファイトを燃やす。その反面、のんびりした所があり、願書提出の期限が切れているのに気付かなかったり、試験当日に寝坊してしまうことがありがち。こうなると〝乳牛〟である。

目的が曖昧だと、炭酸のきれたソーダ水のような〝乳牛〟になってしまう。〝闘牛〟になるためには、志望校をハッキリ決めてやる気を出すことが大切だ。楽しい大学を想像し、志望校にとことん惚れればいい。しかし自分の能力と余りにかけ離れた大学を志望してはいけない。無理と分かった時に臨機応変に別の道を選ぶことができないからだ。まるで赤マントにかわされた闘牛になってしまう。一つくらい逃道を考えておいた方がよい。

また、ナルシストのO型の中にはガンバっている自分に陶酔しがちな人もいる。受験勉強も自己鍛練だとか運命だとか言って、無理して体をこわす可能性が高い。牛肉にされぬ様、自重すべきである。

O型の合格への道は波乱に満ちているが、雑草のような生命力と根性を極めれば、成功すること間違いなし。

AB型

企画力があり、物事を合理的に処理できるAB型人間は比較的どの教科もズマートにこなせる。他人の長所・短所を見つけるのが早く、的確にアドバイスできる才能は殆どコバンザメのそれに近い。周囲からは一目おかれ、プライドが高く弱味を見せないため、冷たい印象を与えがちな様。受験には何の関係もない人間関係から、つまづく恐れがある。もう少し、ホントの自分を出してみてはどうだろう。

AB型は、単純で反復的な勉強は苦手。すぐあきてしまう傾向が強い。コバンザメがはりつく魚をくら替えする様に、あちらこちらに目移りする。やる気を失くすと空想に浸ることが多くなり「大学に入ったらやっぱりテニスかな」なんて不毛なことを考えたりする。あまりにも自分の世界に入ってしまうと周りから変人扱いされてしまい、受験どころではなくなってしまうので要注意。

まだ志望学部を決めていない人は、社会福祉関係の学部を勧める。AB型は道徳性があり、社会に奉仕することが出来るので、今日のコバンザメも明日のマザー・テレサになれるかも知れない。

INTERVIEW センセーに訊け！

「遊びに行きたい。ゆっくり寝たい」込み上げてくる、あらゆる欲望を押さえ、受験勉強に励む日々。わずかな時間の空白に、ふとこんなことを考える。「これほどまでして私達が試験を受けるのは何故だろう――」

今回は筑波大の二人の先生に、〝受験〟について民俗学と心理学の視点から話してもらった。時には原点にかえるのもよし。

ジャマにならない親がいい
まずは職業目標から


カウンセラー
(心理学系)

—受験中心の生活に不適応を起こす人は、どんなタイプが多いのですか。

大学に入ってからの不適応と受験中の不適応があります。私が学生相談をしていて感じるのは、将来の目標がはっきりしない人に多い。目標といっても、職業の目標です。公務員になるとか、企業に勤めるとか、自分がなりたいものがはっきりしなくて、点数で大学を受験しようとする人が、入ってから五月病などになりやすいんですよ。

だから、進路を考えるときは職業目標を決めてから大学、学部と決めた方がよいね。そうすれば、全国模試とかで成績が悪くて「ああ、もうだめだ」とか「僕の人生終わりだ」とか思ったときも、立ち直りが早くなるのです。

—しかし受験生に、勉強さえすれば良いという心理があって、親もそれを望んでいるような気がします。

だから、親の考え方、教師の考え方をもっと変えないといけないと思います。

それで「燃えつき症候群」という言葉を知っていますか。大学に入ることだけを目標にして、もう一生懸命、勉強するのです。五当六落っていって、六時間寝ると落ちると考え、それを金科玉条として五時間ぐらいしか寝ないで勉強するのです。

そんな人が大学に入って、ほっとして、周りみたら、みんな遊んだり飲んだりしてるから、大学というのは、こんなに自由だと思うのです。

だから、もっと人生を長い目で見て、将来どんな職業につくのかね。人生目標を持った方がいいのです。受験勉強だけでなく、社会勉強もした方がよい。新聞を読み、ニュースを見て時にはスポーツし、先輩や社会人とも話して人生目標を考える。そして人間の幅のある人でないと社会に出てから挫折する人になってしまう。

また、真面目すぎる人も良くないよね。大学に入ってから講義を取りすぎる人がいます。一年生で六十から七十単位申請する人もいます。それでは、予習、復習も間に合わなくて、ついていけなくなってしまう。そして「自分は頭が悪いのかなあ」と自信喪失する。また固執性のある人間、融通のきかない人も問題です。こういう人は五月くらいになると挫折しやすい。その点、浪人した人は割合、ゆとりがあって幅のある人がやや多い。ただ、浪人生の中には酒やたばこに溺れてしまう人もいるので気をつけないといけない。

—受験生を持つ親は、どのような態度で子供に接すればいいのですか

だから親はもっと、子供と一緒に将来の人生目標、生活目標を考えてやって欲しい。健康に気をつけながら、人生のよきアドバイザーになって欲しい。

高校の先生は、教員生活しかしてないから、やはり視野が狭い傾向があります。例えば、国際関係学類、工学システム学類、日本語日本文化学類、情報学類などの、新しい学類は何を学び将来どんな職業につくところか、自分達が経験していないので、カリキュラムの内容も十分知らない。特に、新しい専攻分野を高校の先生は、意外と、知らない人もいます。だから親は子供の将来のことを考えて、一緒に勉強して欲しいと思います。

しかし激励しすぎてもいけません。あのサイモンズ(Symonds)という心理学者は親の養育態度を四つに分類しています。拒否的な親、過保護的な親、支配的な親と、そして服従的な親というように。

最近、幼児を虐待する親もいますが、あれは拒否的な親の典型です。しかし、むしろ過保護すぎる親が増えています。子供のできることまで、みんなやってしまうから、社会性のない未熟な子になりがちです。こういう人が、登校拒否や Student apathy になりやすい。部屋にこもってファミコンやテレビゲームばかりしているのです。おたく族にもなります。今、ビデオが盛んだからビデオいっぱい買って、M君みたいになるのです。

最近も、幼児を殺害した埼玉県の幼稚園のバスの運転手が報道されていたが、あの人もビデオをいっぱい買ってきて、一人で楽しんでいたわけです。ダッチドールで性欲処理していたが、それでも我慢できなくて幼児にいたずらをしていたのです。今、日本でもアメリカでも類似の犯罪が増えてきていますが、これも或一面では、親の過保護による未熟な青年や成人の行動とは無関係でないように思います。

それから、支配的な親は親の学歴が高いとか伝統のある古い家などの人に多い。この場合、子供が良い成績をとってあたり前で、悪いと叱られたり軽蔑されたりし、無気力や劣等感をもつようになる。だから、社会的に地位の高い親の子供が幸せとは限らないのです。

最後の服従的な親は、子供のいうままに親が服従している訳です。特に、病弱な子、一人っ子、事故で死なせた子をもつ親などに多い。病気や誘拐、事故などを過度に心配して、子供を大事にするのです。ちょっとでも疲れた様子だと「あぁ、寝なさい」とか「病院だ」とかいって、子供が殿様で親が家来みたいな親のタイプです。

だから、やはり子供の学力・能力・適性などを考えて、あんまり期待しすぎないことも大事です。温かく見守って本人が健康で意欲的に勉強できるような家庭の雰囲気作りが必要でしょう。

—受験勉強をしているとストレスが溜まりがちですが、ストレス解消の方法を教えて下さい。

ストレスには、物理的なものと精神的なものがあります。受験は一つの精神的なストレスですね。

大学生が、どういうふうにストレスを解消しているのかを調べましたが、それを参考に高校生のストレス解消法を述べましょう。

一般的に高校生のストレス解消法としては、一つはね、音楽を聴く。また十分睡眠をとる、スポーツをする、食べる。それから、お風呂に入る、人と話をする、部屋の掃除をする、髪を切る、机の位置を変える、テストの用紙を捨ててしまう、などいろいろな方法があります。最近では、テレビゲームをやる人もいます。

やっぱりストレス解消法には、いろいろあるので自分に適した方法をやればよいと思います。

—この時期、受験生はどういうことに気をつけて過ごしていけばいいんでしょうか。

一つは健康でなければいけない。風邪をひいたりしたら、元も子もなくなる。それから、部屋の暖房は十八度前後の適温にして勉強する。二十度を超えると眠くなるので良くない。

それからね、あせらないこと。百点取ろうと思わないで、合格圏内に入ればびりでも良いと思って頑張る。勉強は復習中心で頭の整理をきちんとすることです。

受験科目をきちんと決め、志望学科を決めておくのも必要です。センターテストが悪かったからといって、専攻を変えるのではなく、大学をかえることでです。全国的に専攻をかえて第一志望学科と違うところに不本意で入って大学生活に不適応を起こしている人が多い。専攻学科をきちんと決めて大学を変えるようにした方がよい。そしてもっと勉強したければ、大学で頑張って、将来第一志望の大学院に入って勉強したらよいと思う。文部省も、年々、大学院生の数を増やしています。四年もすれば定員数はもっと増える。大学院に入って本当にやりたいことを勉強したらよいと思います。健康に留意して、残り少ない受験勉強期間を頑張って目標を達成して下さい。■

ついてまわる官学の意識
地方誘致の時代


民俗学者
宮田登教授
(歴史・人類学系)

—今の状況だと国民そろって受験勉強に勤しんでいるようですが、これは民俗学的にいうと、どのような現象なんですか。

民俗学っていうのは、むしろ伝統社会っていうのを勉強しているから、つまり学校制度が普及する以前どういう折り目をつけてきたかっていうことなんです。

人間は揺りかごから墓場まで行くプロセスの中で、ある成人に達するまで段階を経ていくわけですよね。人生には「誕生」「成人を迎えること」「結婚すること」「死ぬこと」と四つの大事があって、大事ごとに人間は生まれかわってゆくのです。

小学校に入り義務教育を経て大学を受験するのは、十八歳ぐらいですよね。成人は二十歳ですよね。昔は十三歳から十五歳ぐらいが一人前になる折り目のある年だったんですよ。一つは、女性は初潮を向かえる。今では随分早くなってきたみたいですけど。男は若者の集団に入って社会的なトレーニングを受けるんだけど、そこへ入るための儀式があったんですよ。これが当時の受験勉強になったんだと思う。

—それでは、受験も折り目の一つとして考えればいいんですか。

そういうことになりますね。ただ、大学が学生を受け入れる基準に問題があるんです。

日本の受験制度は中国の科挙を真似てるから、エリート養成のためにふるい落とされる必然性はあるわけですよね。ところが大学に入ってプラスになる知識がどうかっていう点は、考慮しないわけだから今の受験の知識がその人の血肉となったり、社会的な知識の中に役立つとは限らないのです。

—このような受験制度では、子供の成長を歪める危険が大きいと言われていますが。

そうだね。あまりにも受験、受験と追いつめていくと、せっかくの能力がついばまれてしまう。最近では人間の持っている創造性を試していこうというので、自筆で書かせる論文とか面接が多く採用されるようになったけど、制度自体は変わっていないわけです。

—その割に自分の子供のことになると目の色を変え、有名校に入学させようとしますよね。

これは群れの性質です。群れをなして渡り鳥みたいにしていけば、安心できるという体質は日本の国民性にあるんですよ。だから一流大学もそういう意味なんですよね。外されちゃったらお先真っ暗になるんじゃないかっていう不安があるんです。でもそこには、個性的な人間が出てこないことにもなります。

それからね、なんでも一流が良いという立身出世型の体質が伝統的にあるんですよ。日本は江戸時代に、ヨーロッパ社会と同じような質の高さで、官僚制というものを作った。優秀な官僚を養成するための学校を藩ごとに持って、秀才を養成したんです。だから官僚を養成するという官学の意識は、にわかに消えないでしょうね。

このことは、日本だけに限らず諸外国にもいえることです。フランスには官僚を養成する研究院なるものがあります。ということは、国家を運営していくのにエリートは必要なんですね。

つまり、日本人の群れの性質と立身出世型の体質が、一流校、三流校なるものを作りました。

—大学の序列化が起こるのは、日本人の体質によるんですか。

自分の能力にふさわしい基準として偏差値に頼ってしまうんですね。偏差値の低い大学でも、ユニークで独創性豊かな大学はあるんですが。

しかし、私立の頑張りによって東大クラスの大学が、多極的になってきているということは、良い傾向なんですよ。受験の体質からいけば、狭き門は明治時代から変わらないけど、チャンスは広がっていますからね。

—これからの大学は、どうなっていくんでしょうか。

多くの大学が、数字の上で経営不能になってね、整理統合されるのではないかというむきもあるけれど、そこまでには、いかないんじゃないですか。

昔のような大学だったら、無くなるだろうけど今は高度な知識だけを求める所ではないでしょ。自由に文化を共有しようというような方針になってきている。自分のテーマを研究するためには、大学院にいかなくてはいけないでしょ。昔の大学と同じようなものが大学院なんですね。ただ、官僚制っていう機能は付いてまわりますが。

国立大は受験者数が減るといっても一定の形を維持せざるをえないからね。国立はあまり増えていかず、私立は増えてるでしょ。ユニークな特徴を出させて、なるべく受験勉強に振りまわされないようにする意図があるのかもしれません。

今は地方誘致っていって、地方にそれぞれ特徴のある大学を作ろうとしてますよね。江戸時代がそうだったから。

—〝江戸時代化〟してるんですか。

そう、江戸時代化するとうまくいくんですよ。藩ごとに学校を作ったように、県を中心にしています。東京に集まるから問題があって、各地域できちんとした大学を持って、その県の文化や伝統を守り、伝えていくとスムーズにいくんです。■